根来山げんきの森倶楽部 令和8年10月作業日誌

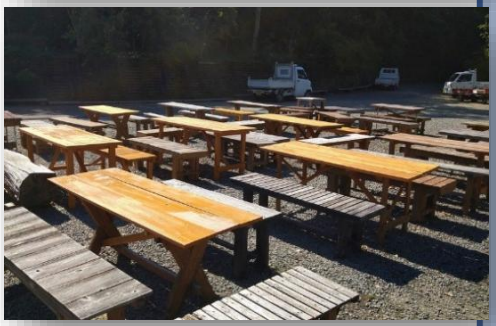
活動日：令和8年10月18日(日)9時30分～　天気：晴れ　参加者：倶楽部員42人

ロゴソール　　楠　正暢



製材作業も回を重ね、新しいチェーンソーは絶好調でトラブルもなく、ルーチン化して捗りやすくなってきました。炭焼き小屋裏のロゴソールスペースも、別日にユンボで整地していただいたそうで、きれいに広々と作業しやすくなりました。今回は 6 名での作業でしたが、2 本のヒノキから厚さ 30mm の板材を十数枚仕上げることができました。通り掛ったお客さんがしばし足を止めて見入っていましたが、乾燥用に積み重ねた板面を指で撫でながら、「チェーンソーでこんなにきれいにできるんですね」と話しかけられる場面もありました。このような板材が、森の中でデッキや柵、テーブルなどとして生まれ変わっていくのを見ると、また別の感動が沸き上がってきますね。A さんに感謝！





うるし谷整備　　林　哉也



樹木の腐朽が進むにつれ、途絶える事のないイノシシの害にあっているコブシ川の護岸。
被害にあっては補修すると言う、行き着く先のない、同じ作業の繰り返しばかりで、モチベーションが下がりっぱなしの為、思い切って材を取り除き、自然のままのコブシ川に戻して、様子を見る計画に方向転換しました。
腐朽材の集積場は、竹を組んで囲む様に作りました。
そこにイノシシの害にあった腐朽材を入れていくというのが作業の流れです。
腐朽材とはいえ、まだまだかなりの重さがあるので、休み休み作業を続けました。
材からはいろいろな虫や幼虫が出てきます。
中でも白くて柔らかく丸々と太ったカブトムシの幼虫は、イノシシにとってはいかにもご馳走に見えましたが、はたしてどうなのでしょうか？
7 名の参加者の皆さま、まだまだ陽射しが厳しい中での作業、お疲れさまでした。
休憩中に谷に渡る風は、過ぎ去った猛暑時とは大きく違い、とても爽やかで心地よいキモチにさせてくれました。

里山整備　岡田 和久

この日は林内作業車も故障で使えなかったため、久しぶりにローププーラーと人力のみでの作業になりました。
場所はわんぱくの森トイレ付近に覆いかぶさっていた、コナラ、オオバヤシャブシ、ウバメガシの伐採と剪定。
まず、コナラにロープを掛け、若手Ｔくんのハスクバーナーがコナラの株に適格に受け口を入れていきます。ロープを張りつつ、慎重に追い口を入れていくとコナラは注文通り歩道沿いに倒れてくれました。幹の直径 30 cmほどの標準サイズのコナラでしたが、倒れてしまえばこっちのもの。みんなで寄ってたかって炭材と薪割り用のタンコロに採材して片付けてしまいました。
次はその隣でコナラやイロハモミジの生育の邪魔をしているオオバヤシャブシ。私も久しぶりにチェーンソーを持って、このややこしい株をなんとか歩道の方向に倒すことができました。オオバヤシャブシは特に活用の道もないので片付けて森に積み上げました。
最後は歩道沿いに 2 本並んだウバメガシ。根から切ってしまうと少し寂しい景観になるので 2 本.に分かれた幹の片方をそれぞれ倒し、途中から出ている無節操な枝を何本か落としてスッキリした樹形に整えました。これは炭材と薪に採寸して軽トラに積んでいきます。
これらの作業の結果、車道からトイレに至る歩道入り口が明るくすっきりした景観になりました。



炭焼き　山本幸司



本日初参加の 2 名を迎えて、午前は窯出しの作業を行いました。今回も前回同様にゆっくりと炭にする方法で行い、かなり良い炭に出来上がりました。今回はすべて一般向けで、240kg＋α の出来高となりました。午後からは炭材の窯入れと太い材のまき割の作業を行いました。炭材も無くなりかけていましたが、伐採作業のお陰で、少々ストック出来るようになりました。

事務局から

「故障」

先月は機械の故障が相次ぎました。
三輪の運搬車が 2 台とも動けなくなるし、林内作業車もクラッチが壊れて働けなくなってしまいました。
これらの機械に頼っている道普請班の作業はお手上げ状態になっています。
便利な機械に頼る作業ははかどりますが、それがなくなってしまうと途端に途方に暮れてしまうってどういうことなのでしょう。。。
僕の膝も今、故障中。少しずつ動くようになってきてる感触もあるのですが、前のようには動きません。
機械も人も同じで、形あるものはやがて壊れていくようです。
ですから、できるだけ長持ちさせるられるようにメンテしながら大事に使っていくことが大切。
みなさんも、自分の体も含めて、モノは大切にしていきましょう、ね。

岡田　和久